

『弱くても勝てます』

“超進学校の「異常な」セオリー”

HONZ史上の最高PVを記録した傑作。

”もしこのレビューを読んで面白い本だなあと思ったとしたら、この本は、その何倍も面白いことを保証する。”

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『出ない順 試験に出ない英単語』

“愛すべき「役にたたない」本”

試験に出ないのである。しかも「出ない順である」。
「役立たずな方向」に、全力で、一生懸命、
真剣に突き進んだ、愛すべき一冊。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『なぜ、世界はルワンダを救えなかったのか』

“地獄を見た司令官”

80万人の命がたった100日で失われたジェノサイド。
無関心でいることを選んだ世界は、この経験から
何を学ぶことができるのだろうか。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『新幹線お掃除の天使たち』

“世界に誇る現場力”

「これをフランスに輸出してほしい」と言わしめた
日本が誇るおもてなし集団。世界最速と言われる
「魅せる清掃」で世界中の注目を集める。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『世界でもっとも強力な9のアルゴリズム』

“「問題解決レシピ」で頭を鍛える”

多くの人々に毎日使われ、世界に大きな影響を与えているアルゴリズム。本書の面白みは、過去の偉人たちの難問への挑戦を疑似体験できるところにある。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『北朝鮮14号管理所からの脱出』

“収容所で生まれ、収容所で育った”

北朝鮮の政治犯収容所における驚くべき実態、奇跡的脱出から脱北後の苦悩まで。世界の最も暗黒なエリアにピンスポットを浴びせた一冊。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『ランドセル俳人の五・七・五』

“いじめと才能”

生まれてはじめて12歳という孫のような年齢の人から力をもらった。無垢に明日は今日より楽しいはずだと生きていたころの気持ちに戻してくれる。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『お父さん、フランス部隊に入隊します。』

“父と息子の葛藤”

大学生が突然、フランス外人部隊に入隊。それをきっかけに、わだかまりを抱えた親子は初めて真摯に向き合う。人生とは？家族とは？その意味を問う。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『これが物理学だ！』

“すべらない授業”

ロックスターのように教壇上を駆け回り、大教室を興奮のるつぼと化す、MITの名物物理学者ウォルター・ルーウィンの講義が、ついに書籍化！

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『本当は怖い昭和30年代』

“ワンコイン・コンビニ本の愉悦”

” ALWAYS3 丁目の夕日なんて嘘っはちだ！”
” 昭和30年代は地獄の3丁目だ！”
「昔は良かった」幻想を見事なまでに打ち砕く一冊。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『妻と飛んだ特攻兵』

“大空に舞った白いワンピース”

満州における知られざる戦争の悲劇を描いた一冊。これほどまでに、小説であってくれと願いながら読んだノンフィクションは、初めてであった。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『チャーチル』

“有事といえる日本に送るリーダー論”

国家の危機に際し政治家はどのように身を処し決断をくださるべきか？第二次大戦を戦い抜いたチャーチルという政治家から見るリーダー論。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『亡びゆく言語を話す最後の人々』

“言語の戦士たち”

歌が、それを生み出した言語より長く生き続けることもある。危機に瀕した言語の最後の話者が教えてくれたメッセージの数々。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『チャイナ・ジャッジ』

“薄一族の野望と挫折”

薄熙来が全ての公職を解かれる「チャイナジャッジ」を受けた真の理由とは？一族を取り巻く現実は、小説よりも小説らしく、映画よりも映画らしい。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『機械との競争』

“テクノロジー失業の時代が迫っている”

仕事をコンピューターに奪われる時代が訪れたとき、我々はどうしたらいいのか。その解決策がこの本を読むことでみつかるともかもしれない。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『謎の独立国家ソマリランド』

“読めばわかる！”

高野秀行、大ブレイク！命懸け取材が『講談社ノンフィクション賞』として報われた。2013年（たぶん）最高の話題作。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『ヘンな日本美術史』

“脱力系講義”

美術史というと難解でとっつきにくい印象があるかもしれませんが、本書の内容は軽くないのに最後まで読み易い構成です。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『中国と 茶碗と 日本と』

“文系的センス・オブ・ワンダー”

「日本人とは何であろう？日本文化とはなんであろうか？」
中国人研究者が、茶碗を頼りに新たな日中文化を描き出す。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『完全なるチェス 天才ボビー・フィッシャーの生涯』

“クイーンを犠牲にした世界チャンピオン”

天才の伝記は神話のようだ。ボビー・フィッシャーという天才チェスプレイヤーも、やはり怒れる神のような印象を持つだろう。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『ゼロからトースターを作ってみた』

青銅器時代からの文明をめぐる旅

おもちゃを分解したときのワクワクした気持ちを
経験したことがあるなら、きっとトースターを少しは
理解できるに違いない。

HONZ
http://honz.jp

レビューはこちら→



『鳥類学者 無謀にも恐竜を語る』

“2013年のNo.1でいいでしょ！”

電車の中では読んでほしくない、前代未聞の科学書。
これまでの恐竜に関する本では、あまり語られること
なかった思考実験も満載！

HONZ
<http://honz.jp>

レビューはこちら→



『サルファ剤、忘れ去られた奇跡』

“歴史を変えた魔法の弾丸”

創薬、特許、健康への貢献、そして、薬禍。
サルファ剤には、現代における薬剤開発の
光と影のすべてがあった。

HONZ
<http://honz.jp>

レビューはこちら→



『量子革命』

“2013年2冊目のNo.1でいいでしょ！”

世紀を超えて真実を探求する物理学と物理学者たちの
面白さを、これほど手際よく書き上げた本をほかに
知らない。人間ドラマとして読んでも素晴らしい。

HONZ
<http://honz.jp>

レビューはこちら→



『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』

“ワインの海は牛の色”

言語はどのように思考に影響を与えてきたのか。
推理小説を読むように言語学の歴史を振り返り、
研究の醍醐味が感じられる一冊です。

HONZ
<http://honz.jp>

レビューはこちら→

